



2 次のAとBの文章を読んで、それぞれの内容に触れながら、「他者と関わるうえで大切なこと」について、あなたが考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。その際に、あなたの考えとは異なる考えを設定したうえで、異なる考えをもつ人たちにあなたの考えを納得させ、対立を乗り越えることができる内容とすること。文章の構成は三段落か四段落とし、主張の説明として具体的な例を示すこと。

A

あなた自身が「楽しい、面白い、不思議だ、ワクワクする、ドキドキする」と感じ、心から求めているものを優先すれば、それでいいのです。「磨く」とか「発揮する」などと意識しなくても、自分が本当に好きなもの、興味があることに気持ちが向かっていけば、自分の世界がどんどん広がっていく。それが本当の意味で「個性を磨く」ということです。

いちばん良くないのは、友達の反応を気にしたり、世間の思惑に振り回されたりしながら、「個性を磨かなきゃいけない」と無理をすることです。そのうちに自分の軸足をどこに置いていいかわからなくなり、自分力が失われ、結局は自分で自分の個性をつぶしてしまうことになりかねません。

(今北純一「自分力を高める」より)

B

私たちの生活は、他人との関係のなかで営まれ、一定の役割を演じることが必要です。家庭では、親として、子として、兄弟として、ふるまっています。友人としてふるまうときと、恋人としてふるまうときでは、まったく違う行動をとるでしょう。一人の人でも、状況によって多様な人間関係を取り結んでいるので、その状況に応じて言動を変えなくてはなりません。その場その場に応じて、異なる人格が要求されるわけです。

そうだとすれば、多重人格とまでは言わないまでも、多様な人格はむしろ必須なのではないでしょうか。いままで、「人格は一人に一つ」と考えられてきました。しかし、変化のめまぐるしい現代社会では、さまざまな状況に対応して異なる役割を演じ分けなくてはなりません。

(岡本裕一郎「12歳からの現代思想」より)